突撃インタビュー

編集部ハルちゃんが行く！

ハルちゃんって誰？

先日、朝のニュースで「今年は夏太りする人が急増！」という報道をしていて、夏太りした人たちの生活パターンがすべて当てはまってしまった、本誌の編集担当者。これはイカンと久々に体重計を引っ張り出してきたところ壊れてて、なんとういか、オンナとして非常に残念な状態でございます。気を取り直してダイエットの本を買いにいったはずが、なぜか料理の本5冊を買い込んでいる有様。このまま馬肥ゆる秋に突入するのかなあ…(怖)。

今回は、固定砥粒によるソーラーシリコンウエハ加工で高いシェア率を誇る新興製作所さんにインタビュー。ものづくりの精神を支える背景には、砥粒加工学会とも深いご縁のあるあの先生のお姿がありました！

第56回目　株式会社　新興製作所

SINKO MANUFACTURING

（津山工場）
〒719-3145　岡山県真庭市西河内170-6
TEL(0867)52-3781　FAX(0867)52-1548
http://www.sinko-fh.co.jp/

お話を伺った方

取締役
製造部 部長
福岡 昭弘　氏

製造部
次長
鷲須 恒夫 氏

製造部
次長
中村 秀和　氏

□■今回のお題：「入魂」精神■□

会社の沿革は?

ハル：よろしくお願いします。御社はソーラーシリコンウエハの切断加工で大きなシェアをお持ちですが、まずは会社の沿革から教えていただいてもよいですか?

福岡：わが社は昭和35年、現会長の古川敏行が「古川電器製作所」を創業したのがはじまりです。はじめはラジオ部品や電子部品を手がけており、平成14年頃までは水晶振動子などの「磨く技術」をメインに事業展開をしてきました。

ハル：えっ、ウエハ切断などの「切る技術」がメインではなかったんですか?

鷲須：そうですね。小型ヘッド加工や水晶振動子の切断などの「切る技術」は、昭和50年代頃からとなります。それが平成14年頃から一気にソーラーシリコンウエハの切断受注が増え、現在わが社の業務の5～6割はソーラーシリコンウエハの切断加工となっているのです。

ハル：御社は、固定砥粒で加工するものとしては太陽電池ウエハの出荷が日本一とうかがったので、創業以来ずっと切断技術を極めてこられた会社だと思ってました！

中村：わが社が切る技術を磨いていけた背景には、大学の先生方のご協力もあってこそですね。

津和先生との出会い

ハル：大学の先生といえば、御社は大阪大学におられた故・津和秀夫先生とも深いつながりをお持ちだそうですね。津和先生といえば砥粒加工学会の会長も務められ、この分野で大きな貢献をされた方だとうかがっているのですが、御社とはどういう経緯で交流がはじまったのですか?

福岡：会社創業後、事業拡大のために岡山に工場を建てたのですが、その後オイルショックのあおりを受けて大変な時代がきたのです。そこで新たな分野を模索していたところ、「クオーツ時計に使用されるトリマコンデンサーをつくるため、金属と樹脂の同時研磨をしてほしい」という依頼がきたのです。異なる性質のものを同時に研磨してまっすぐな面をつくらなければならないのですが、どうしてもうまくいかない。ボンドのつくり方をメーカーに教わったりと、試行錯誤の日々が続いたようですね。

ハル：資金が潤沢にあるなかで新たな技術を研究するならともかく、大変な時代に、会社を運営しつつ新分野の技術を身につけなければならないというのではご苦労も多かったことでしょうね。

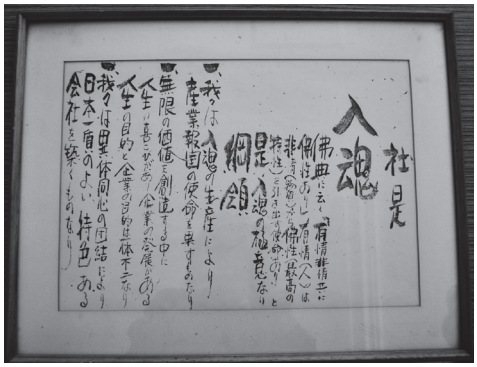
鷲須：そんな状況のなか、当時社長だった古川会長が雑誌で津和先生のことを知り、アポなしで大阪大学に飛び込んでいったんですよ。

ハル：ええっ、アポなし!?　すごい行動力だなあ。

福岡：そうですね。そうしたら偶然、古川会長の幼馴染が津和先生の研究室で技官をなさっていて、バッタリ出会ったというのです。お互い「お前、こんなところで何してるんだ」という状況だったらしいですね(笑)。

ハル：すごい、ドラマみたいな展開ですね! よく偉人伝を読むと小説みたいな展開があって「ホントかなぁ」と思うことがあるけれど、実際にもそういうことがあるのだなあ。でもそれは古川会長の行動力があってこそですよね。

福岡：そこから津和先生との交流がはじまったのですが、津和先生には技術的なことだけではなく、ものづくりに関わる精神そのものもご教授いただきました。わが社の社是も、津和先生によるものなんですよ。



新興製作所さんの社内に飾られていた、津和先生による「入魂」と「社是」の額。工場の入口には「生産道場」の額もあり、この会社の「ものづくりに対する真摯な姿勢」がひしひしと感じられました。

入魂精神と生産道場

ハル：そういえば御社の工場入口には、「生産道場」と墨書された立派な額が掛かっていますね。今回お話を伺った部屋にも「入魂」という墨書がありますが、文字から、なんというか、ものすごい気迫を感じました。これも津和先生が書かれたものなんですか?

中村：そうです。「入魂」の額を見られたお客様のなかには、津和先生のことをご存知なくとも「あの額から、ものすごいエネルギーを感じる」「圧倒される」などとおっしゃる方も多いですね。最近では日本の方より、海外の方がより関心を持たれるようです。漢字が読めなくとも、額から気迫を感じとってくださっているのでしょうね。

ハル：それって、もはや芸術作品の域ですね! ところで「工場」ではなく「道場」としているのには、どのような考え方があるのでしょう?

福岡：工場での作業は、一見すると単調なものです。でも、ただ漫然とマシンを扱うのではなく、そこに心、魂を入れる必要があるのです。「生産道場」と「入魂」という言葉には、その教えが詰まっているんですよ。

ハル：単調な作業の中に魂を入れるというのは、まるで禅修行のようですね。禅にはあまり詳しくないのですが、たしか、ごはんを食べたり掃除をしたりという日々の動作ひとつひとつに精神を集中させて修行してゆくという面もあったような…。工場で同じ作業時間を過ごしても、漫然とやっているのと禅修行と同じ精神でやっているのとでは、技術的にも精神的にも鍛えられそうだなあ。

中村：今ではこの「入魂」の精神は、社長から社員全体に伝えています。今後わが社に入社してくださる新入社員の方たちにも、脈々と受け継がれていくことと思いますね。

ソーラーシリコンウエハの加工

ハル：御社で手がけているソーラーシリコンウエハの切断加工には、どのような特徴があるんですか?

鷲須：そうですね、大型機でウエハを切断するのではなく、太陽電池業界からみると比較的小型機で、いかに無駄なく、精度よく加工するかということが挙げられますね。小型なのでロスが少なくてすむというメリットもあります。

ハル：なるほど～。ところで冒頭で述べたように、固定砥粒の加工としては御社は太陽電池ウエハの出荷が国内トップレベルとうかがったのですが、遊離砥粒は手がけていないのですか?

中村：いえ、工場にあるワイヤソーの台数としては、遊離も固定も同じくらいですよ。ただ、固定砥粒は加工時間が短いため、結果的に固定と粒で加工したもののほうが出荷数は多くなりますね。

ハル：固定砥粒で切断するのは遊離砥粒より難しいという話も聞きますが…。

福岡：技術が難しいというより、切り替えなどでコスト的に合わないという企業が多いのではないでしょうか。技術面としては、わが社では社員が大学に研修に行くなどして習得しました。最初のテストで小さいものを使ってうまくいっても、実際に156mmのもので加工するとうまくいかなかったりと苦労も多かったですね。でも、固定砥粒では切りくずを大幅に減らすことができたり、加工時間を短縮できたりなどメリットが多いので、今後は固定砥粒による加工が求められていくでしょうね。

ハル：社員の皆さん一同入魂精神をもって、今後も躍進なさることでしょうね。ありがとうございました!

取材のあとのお楽しみ♪

津山工場に向かう道中、何度か見かけた「ホルモンうどん」のノボリ。取材にうかがった日が酷暑だったこともありそれほど食指が動かず、「最近よくある、ご当地グルメのひとつかなあ」程度に思っておりました。ところが後日テレビを見ていたら、私が行こうかどうか悩んでいた「B-1グランプリ in 厚木」（全国のB級ご当地グルメの祭典）の紹介コーナーで「去年第3位を勝ち取り、大注目株の津山ホルモンうどん～」とのナレーションが！暑いからいいやなんて思わずに食べときゃよかった!!

こんなモノ見つけました

津和先生の還暦写真☆

赤いちゃんちゃんこを着てにこやかに微笑まれているのは…そう、還暦を迎えられた際の津和先生です。「入魂」の額とともに今も社内に飾られているこのお写真、新興製作所さんと津和先生の強い絆をあらわしていますね。